2017年5,6月号　Vol.189

KOSMOS

編　集 発行人 中谷比佐子
発行日 平成29年5月11日
発　行 ㈱秋櫻舎
〒160-0023
東京都新宿区西新宿 4-32-6　パークグレイス新宿 1306
TEL:03-5350-4261　FAX:03-5350-4636
E-mail：info@kosmos.ciao.com
中谷比佐子の粋モダン http://iki-modern.com/

きもの二十四節気　立夏・小満～芒種・夏至

３年前にリニューアルされた「岡谷蚕糸博物館」にて。館長 高林千幸さん（左）、学芸員 林久美子さん（右）と。

「比佐子　つれづれ」考

中谷比佐子

毎月第四土曜日の午後「比佐子つれづれ」の会を40年続けてきました。

市ヶ谷に事務所を持っているときに婦人誌5冊の着物関連ページを引き受けていたので、全国各地の染織状況や伝統芸能の装束や映画俳優の着こなしの極秘情報が逐一入り、それを着物好きの方たちと共有したいと考えた集まりでした。

着物の取材を続けていると、着物が持つ奥深さに引き込まれていきます。

その驚きをその不思議さを皆さんにお話するのが無上の楽しみとなったわけです。

どんな仕事より、このつれづれの会を優先してきました。ですから第四土曜日は私の最も大切な時間であり、私自身の学びの場でもありました。

またこの日を楽しみに集まる方のそれぞれの衣装を拝見するのも、着物の奥深さを知る機会でもありました。

そういう時間の中で、着物を着る

裏面へつづく

ご報告　つれづれツアー

『蚕糸業を巡る旅』（長野県岡谷市）

絲都岡谷へ

4 月 28 日早朝、新緑を眺めつつ、あずさ号で長野県岡谷市へ向かいました。

諏訪湖にほど近い盆地の岡谷、耕作地も少なく貧しかった中、手間のかかる綿打ちなどで鍛えられた生真面目でまめな気質から、養蚕業で一大拠点となり、手引きした生糸は「登（のぼ）せ糸（いと）」とよばれ、京都を中心に機織り産地へ取引される上等な生糸を生産しました。明治以後になると、道具、機械、企業としての仕組みを独自に整備、最盛期には日本全国で作られていた生糸の全国生産量の 25 % が岡谷でつくられていたほど。その名は「絲都岡谷」として世界にまで広まりました。

しかし現在、日本にほんの数軒しか残っていない製糸工場は、山形、群馬（富岡）、そして長野に 2 軒（岡谷、下諏訪のみ）。最盛期は、岡谷だけで千本もの煙突が立ち、煙で見通せなかったそうですから、比べ物になりません。

「日本絹文化フォーラム」スタート

この岡谷で今年から始まったのが「日本絹文化フォーラム」。蚕糸業の諸先生方の後、チャコちゃん先生は実体験から「自然法則にかなった着物文化」と題してお話。わかりやすく面白かったですよー、と好評でした。終了後は皆さまと桑料理をいただきながらの交流会。蚕糸のプロばかりで、めった聞けないお話も！

「蚕霊（さんれい）供養塔例大祭」参列

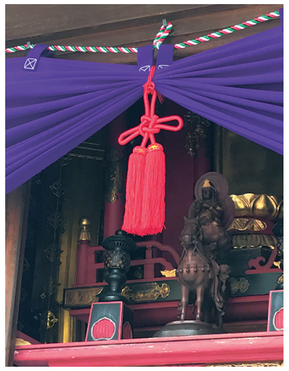
翌朝は、照光寺さんで年一度の例大祭に参列し、蚕の霊をご供養させていただきました。この日だけ御開帳される「馬鳴（めみょう）菩薩」様を前に、僧侶たちの読経、そして何より檀家の女性たちによる御詠歌に、胸を打たれました。これからも着物を着続けるためにも、参列できたことに感謝。

リニューアル「岡谷蚕糸博物館」

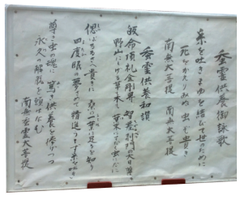
ランチタイム、岡谷名物の美味しいウナギに舌鼓を打ち、もう一つの目的地「岡谷蚕糸博物館」へ向かいました。この博物館は昭和 39 年開館。半世紀を経た平成 26 年、新たな役目を担い、現役で操業している「宮坂製糸所」との併設という珍しい形態で再スタートしました。貴重な歴史、物語、そしていまなお活きて未来へとつなげられている製糸業の様子を、体感できる工夫と共に分かりやすく伝えてくれます。

蚕糸業のスーツ姿の叔父さま方が多い中、着物姿の秋櫻舎関係者の参加は、フォーラムでも、博物館、例大祭でもとても喜ばれました。来年には、さらなる特別企画があるかも!?　ディープな岡谷の旅、ぜひご一緒にご参加ください。

蚕霊供養塔の前で、若住職　宮坂宥峻さんと。



養蚕の守り本尊 馬鳴菩薩様。蓮華の上で馬にまたがり、左手に繭、右手に絹糸を持ち、貧しい人に衣を与える。



「蚕霊供養御詠歌」

博物館内、学芸員によるフランス式操糸機による座繰りの実演。
奥では、宮坂製糸所の製糸業も見られる。

ことで不可欠なことは、「建康であること」と気がつき、着物とは全く関係がないと思われる、体の仕組みや、健康に過ごすことのノウハウを知る必要があり、専門家たちに取材をはじめました。

その中で最も腑に落ちた予防医学が「アーユルベーダー」でした。幸いにも「蓮村誠医学博士」と懇意になり、5年にわたって詳しく教えていただいた結果、着物自身が最も重きをおいている、季節感・旬の「気」の取り入れ方との共通点にいたく感動したものです。

まずは我が日常に取り入れたところ体は快調、元気に着物を楽しむことができるようになりました。その予防医学ももちろん「つれづれの会」でご披露いたしました。その結果みなさん健康になり、着物をさらに楽しむことができるようになったのです。

現地訪問で染織の奥深さを垣間見る

健康になると出歩きたくなるのは人の常。着物を着て遠征したくなります。

昔からの取材先に皆さんをお連れする喜びは格別です。長い間に仕事をお辞めになった方たちもいらっしゃいますが、長きに渡って我が道を極めている方はその人ならではの生きる哲学があり、お話を聞いているだけでも、楽しい時間です。

またその作品を手に、肩に掛けたり、身につけて楽しむことも現地旅行の醍醐味でしょうか。

更にはその地の食べ物にも興味をそそられます。独特な食べ物が、私達の舌を楽しませてくれます。そういう土地のうまいものを知っているのも、その地を愛している染織家たちの感性の賜物。景色や名所旧跡を尋ねることはもちろんですが、その土地になぜこの染織が生まれているのかということも、日本の文化を知る縁となります。

都と呼ばれるところには「染めの着物」が発達していますし、城下町では「織りの着物」が主流です。

それは江戸時代の「藩政」が未だに生きているからです。我が藩の生活を安定させるために、その土地にあった産物を藩主は考え、民衆を教育し、発展させ、他の藩に輸出奨励をして、人々の生活の糧になるようにしたのです。

日本の染織はこうやってそれぞれの地で発達してきました。その現場にいき、歴史に触れることで、今自分が着ている着物に深い愛着を持つようになります。

着物で仕事をしている人から学ぶもの

歌舞伎や文楽、日本舞踊や、能、舞台鑑賞も着物をより深く知ることに役立ちます。特に文楽人形の動きや作法は、着物を着続ける人にとっての師匠です。

人間国宝の吉田簑助師匠の人形遣いはもうため息が出るほどの美しさ、色っぽさ。着物を着た女はかくあるべしという仕草を教わったりします。

歌舞伎の衣裳や舞台装置の色合わせも参考になります、またそれぞれの劇場の着物姿の女性たち。歌舞伎座は華やかな方が多いし、文楽はいかにも着物通の方たち、そして能の鑑賞者は古典の品の良い着物を着た方が多いのですね。

舞台を鑑賞しながら、お人の着物を学ぶという事もできるわけです。

また長年のおつきあいのあるお座敷に上がり、芸者さんの芸を見たり、衣装を参考にしたり。また旅行といえばお宿、これも老舗の旅館に泊まり、名物女将の人となりに接して、着物を着て働く姿を参考にしたりしました。これらはすべて「取材」と言う仕事の成果でもあると思うのです。

着物が私にまたとない「場」を与えてくれたこと、いまはとても感謝をしています。

最近は「日本の絹」がテーマ

「ひさ蚕（こ）」という新品種の蚕がこの初夏誕生です。蚕の研究は三十年という月日を数えることができますが、知れば知るほどこの世にこんなにも凄い生物がいるのかしらと思ってしまいます。

蚕は日本を救ってきました。明治の近代化を助け、昭和の高度成長期を支えました。しかしながら今は化学繊維に押され、日本での生産は僅かなものになってしまいました。だからこそ私は蚕の話を続けたいと思っています。

岡谷で働いていた「工女さんたち」

その歴史を、岡谷蚕糸博物館で知る事が出来ますが、働きながら、和裁、料理、一般教養、おしゃれのことなどなど、女としての教養を身につけ、それぞれの故郷に帰っていきます。製糸工場で生き生きと働いた「工女さん」たちのお陰で、日本の絹が世界に名をとどろかせたのです。

そして自然法則と着物の話も私にとって永遠のテーマです。ゆらゆらしながらも「つれづれの会」は続けていきますが、今年は毎月必ずということはなく、時々休ませていただきます。

でも皆さんとお会いするのが楽しみですので、ぜひいらしていただきたいと思います。耳寄りな話ができるように、私も全身を耳に目にして情報をキャッチしておきたいと思っています。

KOSMOS schedule

秋櫻舎講座スケジュール

つれづれの会

●テーマ
糸を中心に素材を学び直す～取材で得た話（養蚕地の実話など）～

●開催予定日（全て第4土曜日）
6/24、7/22、9/23、11/25（5、8、10 月はお休み）

◆6 月 24 日「八寸帯のかがり方」
講師：「加藤帯裁縫所」加藤史郎さん
自分で八寸帯をかがるときのコツを中心に、帯についていろいろ伺います。
持物・八寸帯、裁縫用具

◆7月 22 日「アイロンのかけ方」
講師：「高橋染洗い店」高橋信一郎さん
物にアイロンをかけるときのコツを中心に、悉皆についていろいろ伺います。

●参加費　5,000 円 (税込)

＊10 月 28―29 日は、長野県安曇野市でイベントを企画しています。
＊つれづれXmasParty は、12/2(土) に浅草の料亭を予定!お楽しみに。

ナイトコスモス

●テーマ
「着物と自然法則」
きものの基本について、要となることをお話しています。初心者の方もぜひどうぞ。
●講師　チャコちゃん先生
●開催予定日（毎月第 1 金曜日）
6/2、7/7……
●参加費　1,000 円 (税込) 要予約

新登場　「つくり帯」承ります

見た目には全く「つくり帯」と分からないものを、考案いたしました。気に入った帯だけどサイズが合わずに太鼓柄が上手く出ない!とか、腕が上がりにくくて…とか、刺繍帯などであまりぐるぐると回したくないなど、そんな時にご相談ください。帯にはさみを入れないで出来る場合もございます。詳細は、お問い合わせください。

比佐子流着物学問所

『着付け無料体験』

各自の身体に合わせて自然に着ること、評判の「比佐子流着付け教室」入門前に、一度お試しで体験してみたいという方、ぜひどうぞ。
その後のレッスン方法（個人クラス／グループレッスン、開講日時回数ほか）もご相談に応じます。
・グループレッスンの基本は、
受講料　¥70,000 ／ 5 回

・安曇野市内でのレッスンも、引き続き開催しております。詳細お問い合わせください。
purple-moon.0525@ezweb.ne.jp
（関戸携帯）

＊美しい着物姿を学べる文楽の東京公演（国立劇場）へ、毎度伺っています。人間国宝の簑助師匠からチケットを分けていただいているので、ご一緒のご希望ある方、秋櫻舎へお問い合わせください。

＊10 月 9-10 日は徳島県へ。先月大好評だった三村隆範先生（『阿波古事記研究会』副会長。「阿波新聞」発行責任者）のガイドで、「本当の古事記」を巡り、阿波の国を訪ね歩きます。